

平成26年度（2014年度）
事業計画

平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで

公益財団法人 日本水泳連盟

平成26年2月

所 信

昨年6月の役員改選により本連盟の会長を務めさせていただき、半年余が経過いたしました。この間、世界選手権（バルセロナ）では瀬戸大也選手が金メダルを獲得するなど、ロンドン五輪からの勢いを維持する活躍をみせてくれました。また皆さんご承知の通り9月のIOC総会で2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催が決定いたしました。招致活動の際は、多くのご支援をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。その他、今年度はすべての事業において、お陰様で滞りなく実施することができております。皆さまのご理解とご支援の賜物と重ねて感謝申し上げます。

さて、平成26年度事業計画作成にあたっては、リオデジャネイロ・オリンピックまで2年、東京オリンピックまで6年となり、引き続き“センターポールに日の丸を！”をスローガンに、更に各部門連携を強化しながら何事もスピード感をもって目標達成に向けて邁進してまいります。

まず、強化部門では、競泳のパンパシフィック大会（オーストラリア）に重点を置きつつ、全競技が出場するアジア大会（韓国・仁川）を最重点大会ととらえ、競泳、飛込、水球、シンクロ共にそれぞれの課題を克服し、総メダルランキングでアジアナンバーワンを目指します。また同時に、2020年を見据えたジュニア世代強化のため競泳のジュニアパンパシフィック大会を始め、各競技で海外遠征だけでなく国内合宿等も充実させていきたいと考えております。

次に、競技事業においては、これまでの経験と実績を更に充実したものとすべく、全国統一した競技会運営、内容（質）、経験の積み重ねに努めて参ります。その上で、強化部門と連携した競技会カレンダーを企画し、全国大会の活性化と効率化を図ります。その第一弾として10月にワールドカップ東京大会の継続と日本選手権（25m）の併合開催をいたします。また、ジュニアオリンピック春季大会において飛込競技を追加し、将来を見据えた競技会の充実・改善を重ねて参ります。

また、生涯スポーツ・普及においては、『水泳の日』の創設に向けて準備がスタートいたしました。水泳に関係する団体との協力関係を密にし、水泳愛好者の知恵を集約し“国民皆泳”を目指して、新たに「水泳の日」実現に向けて取り組みます。

さらに、水泳界の屋台骨を支える、指導者の養成事業、競技役員・審判員の養成事業にも積極的に取り組んで参りたいと考えております。また、総務事業関係では、更なる強化活動の充実を図り、確かな成果を挙げるためには、自主的な財源の確立が必要であり、競技者登録料の改訂を行ないます。これまで、マーケティング活動の推進や公的機関からの助成金増額など、皆さまのお力添えにより順調に運営してまいりましたが、海外派遣時の個人負担金の廃止に伴う収入の減少や、各種事業の更なる充実、遠隔地への派遣旅費や滞在費の負担増など、連盟経営を圧迫する要因には諸経費の削減などの努力だけでは、対応が難しく抜本的な対策が必要と考えるに至りました。ご理解のほどお願いいたします。

ご承知のように平成24年に発表した『ドリームプロジェクト2020』には選手強化や普及事業だけでなく、水泳を通じての社会貢献や世界に向けての日本水泳の発信など、具体的な到達達成目標を掲げております。引き続き総力を結集して取り組む所存ですが、加盟団体をはじめ関係の皆さまには、なお一層のご理解とご支援をいただきたくよろしくお礼申し上げます。

平成26(2014)年2月23日

会長 鈴木 大地

国際競技大会参加予定一覧

(注) ◎印は主要競技大会

種目	競 技 会	平成26 (2014) 年度	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度
競	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	パンパシフィック選手権大会	◎			
	アジア選手権大会			○	
	東アジア大会				○
	短水路世界選手権大会	○		○	
ワールドカップ大会	○	○	○	○	
泳	ユースオリンピック大会	○			
	ジュニア世界選手権大会		○		○
	豪州ジュニア遠征	○	○	○	○
	ジュニアパンパシフィック選手権大会	○		○	
	ヨーロッパグランプリサーキット大会	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会				○
	地域代表海外派遣 (シンガポール)	○	○	○	○
飛	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	FINAワールドカップ	◎		◎	
	アジア選手権大会			○	
	東アジア大会				○
FINAワールドシリーズ	○				
込	グランプリ大会 (カナダ・イタリア他)	○	○	○	○
	アジアエージ選手権大会		○		○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
	ユース海外派遣	○	○	○	○
水	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	ユニバーシアード大会		◎		◎
	アジア選手権大会	○		○	
FINAワールドリーグ	○	○	○	○	
球	アジアエージ選手権大会 (U17)		○		○
	アジアジュニア選手権大会 (U19)	○		○	
	ユース世界選手権大会 (U18)	○		○	
	ジュニア世界選手権大会 (U20)		○		○
シ ン ク ロ	オリンピック大会			◎	
	世界選手権大会		◎		◎
	アジア大会	◎			
	アジア選手権大会			○	
	東アジア大会				
	オリンピック大会予選会			○	
	ワールドカップ大会	○			
	FINAワールドトロフィー	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
	アジアエージ選手権大会		○		○
ジャーマン・フレンチオープン	○	○	○	○	
クリスマスプライズプラハ	○	○	○	○	

I 事業の方針

1. 競技大会開催事業

日本選手権水泳競技大会（競泳・飛込・水球・シンクロ）をはじめ、OWSを含めた全競技の各種全国大会を主催団体として企画・立案を行うとともに、競技会の予算管理及び運営を行う。また、日本体育協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と共催で、全国大会の運営を行う。

競泳ワールドカップを始めとする国際大会を主管団体として成功に導くとともに、2020年東京オリンピックに向けて国際大会の積極的な招致活動を行っていく。

(1) 競技事業・マーケティング

- ① 各種目競技会・会議の企画・立案
- ② 各種目競技会の予算の管理
- ③ 国際関係特別事業の企画・立案
 - ・ F I N A 競泳ワールドカップ
- ④ 国際大会派遣
- ⑤ 主要競技会の日程・管理
- ⑥ マーケティング活動の推進

(2) 競技運営

- ① 各種目競技会日程および要項の作成
- ② 主要競技会の主催・共催運営
- ③ 国際関係特別事業の開催
 - ・ F I N A 競泳ワールドカップ
- ④ 医事委員会と連携した安全体制の整備

【競泳競技】

(a) 日本選手権水泳競技大会 兼第12回パンパシフィック大会代表選手選考会 兼第17回アジア大会代表選手選考会	4月10日～13日	辰巳国際	東京
(b) ジャパンオープン2014(50m) 兼第12回パンパシフィック大会代表選手選考会 兼第17回アジア大会代表選手選考会	6月19日～22日	辰巳国際	東京
(c) 日本大学・中央大学対抗戦	7月5日	辰巳国際	東京
(d) 早稲田大学・慶応義塾大学対抗戦	7月6日	辰巳国際	東京
(e) 日本実業団水泳競技大会	8月2日・3日	秋葉山公園	和歌山
(f) 全国国公立大学選手権大会	8月9日・10日	利府 G21	宮城
(g) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	千葉国際	千葉
(h) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	くろしお	高知
(i) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	辰巳国際	東京
(j) 日本学生選手権水泳競技大会	9月5日～7日	横浜国際	神奈川
(k) 国民体育大会	9月12日～14日	長崎市民	長崎
(l) 日本選手権水泳競技大会(25m)	10月28日・29日	辰巳国際	東京
(m) 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京

【飛込競技】

(a) 室内選抜飛込競技大会	6月13日～15日	辰巳国際	東京
(b) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	千葉国際	千葉
(c) 全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	春野運動	高知
(d) 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～29日	大阪プール	大阪
(e) 日本学生選手権大会	9月6日・7日	大阪プール	大阪
(f) 国民体育大会	9月12日～14日	福岡県立	福岡
(g) 日本選手権水泳競技大会	9月19日～21日	辰巳国際	東京
(h) 国際大会派遣選考会	2月7日・8日	辰巳国際	東京
(i) 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月25日・26日	辰巳国際	東京

【水球競技】

(a) 日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	辰巳国際	東京
(b) 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	門真	大阪
(c) 日本学生選手権大会	9月5～7日	さがみはら	神奈川
(d) 国民体育大会	9月8～10日	長崎市民	長崎
(e) 日本選手権水泳競技大会	10月10～12日	辰巳国際	東京
(f) 全日本ユース(U15)選手権大会	12月24日～27日	倉敷屋内他	岡山
(g) 全日本ジュニア(U17)選手権大会	3月19日～22日	柏崎	新潟
(h) 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉

【シンクロ競技】

(a) 日本選手権水泳競技大会	6月6日～8日	尼崎SP森	兵庫
(b) 日本シンクロチャレンジカップ2014	8月7日～10日	辰巳国際	東京
(c) 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月27日～30日	利府G21	宮城
(d) 国民体育大会	9月7日	長崎市民	長崎
(e) 日本学生選手権	9月28日	横浜国際	神奈川
(f) 13～15歳ソロ・デュエット大会	1月11日	辰巳国際	東京
(g) シンクロナショナルトライアル2015	1月12日	辰巳国際	東京

【その他】

(a) OWSジャパンオープン2014館山	7月20日	館山北条	千葉
(b) 日本マスターズ大会	7月18日～21日	横浜国際	神奈川

2. 競技条件整備事業

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備すると共に、社会的な基盤を整備し、その水準を維持することにより、水泳競技の普及発展を図る。

(1) 競技者登録事業

① Web-SWMSYSのシステム改善

- 競技者登録番号(7桁ID)の重複IDの集約
- 記録管理システムからのエントリータイムの取込(リレー種目)

② モバイル携帯機器の活用拡大

- 超速報システムの開発
- 記録ランキングデータの活用

- ③ 他システムとの連携
 - (a) Web-SWMSYS、記録管理、リザルトシステムの連携強化
- (2) 競技規則制定事業
 - 各種目の競技規則の整備・情報提供の促進
- (3) 競技役員養成・登録事業
 - ① 競技役員及び審判員の研修会・講習会
 - (a) ブロック
 - (b) 各地域
 - ② 全国競技委員長会議の開催
 - ③ 加盟団体競技担当者との電子メールによる情報交換システムの実施
 - ④ 資格表の作成
- (4) 競技記録公認・管理事業
 - ① 日本記録及び高校・中学・学童記録の公認
 - ② FINAへの世界記録の申請
 - ③ ホームページ上の記録の管理
- (5) 施設用具公認・推薦事業
 - ① プール公認規則の整備・実施・情報提供
 - ② プール施設の公認(事前・新規・再公認)
 - ③ 施設用器具の公認・推薦
 - ④ 施設用器具の研究開発・審査
- (6) アンチ・ドーピング活動事業
 - 国内競技会において検査を実施するとともに、普及・啓発活動を実施する。

3. 選手派遣事業

- (1) JOC事業
 - ① アジア競技大会

	韓国・仁川
(a) 競泳	9月21日～26日
(b) 飛込	9月29日～10月3日
(c) 水球	9月23日～10月1日
(d) シンクロ	9月20日～23日
 - ② ユースオリンピック競技大会

	中国・南京
8月	
- (2) 国際競技会
 - ① パンパシフィック選手権 競泳

	オーストラリア・ゴールドコースト
8月	

4. 選手強化事業

国際大会で活躍する選手を輩出するための強化事業を推進する。医事委員会や科学委員会との連携を深め、選手が国際大会で活躍できる環境を整備する。次回2016年リオデジャネイロ・オリンピック、2020年東京オリンピックに対する中長期的な戦略のもと、次世代を担う選手発掘・育成のための事業を推進していく。

(1) 競 泳

① 国際競技会

(a) ヨーロッパグランプリサーキット	6月	ヨーロッパ
(b) ジュニアパンパシフィック選手権	8月	アメリカ・ハワイ
(c) ワールドカップ	8月～11月	中東・アジア・ヨーロッパ
(d) 世界短水路選手権	12月	カタール・ドーハ
(e) 五カ国対抗戦	2月	オーストラリア
(f) 選抜遠征	2月	オーストラリア
(g) ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

② 強化トレーニング合宿

(a) 海外合宿(フラッグスタッフ・グアム)		
(b) パンパシ・アジア合宿	4月・6月	JISS
(c) パンパシ・アジア高地合宿	7月～8月	アメリカ・フラッグスタッフ
(d) パンパシ・アジア強化合宿	4月～8月	JISS
(e) ジュニア・パンパシ合宿	7月	JISS
(f) アジア事前合宿	8月～9月	JISS
(g) アジア直前合宿	9月	静岡
(h) 世界短水路合宿	10月	JISS
(i) 世界短水路合宿	11月	未定
(j) エリート小学生合宿	4月・9月	JISS
(k) インターナショナル・JrB 強化合宿	5月	JISS
(l) ナショナル合宿	12月	鈴鹿・静岡
(m) インターナショナル合宿	12月・2月	JISS・GUAM
(n) 地域ブロック合宿	12月	各ブロック担当県
(o) ジュニアエリートA 合宿	3月	JISS
(p) 2020対策合宿(週末合宿)	未定	JISS

③ コーチ派遣・招聘

(a) ASCA会議	9月	アメリカ
(b) ヨーロッパ視察	未定	ヨーロッパ
(c) オリンピック視察	8月	リオデジャネイロ

④ 企画、研修及び講習会

(a) 全国強化コーチ会議	10月	東京
(b) ナショナルコーチングスタッフの育成	10月	東京(クリニック)
(c) ブロック合宿担当者会議	10月	東京
(d) 強化コーチ巡回指導	12月	ブロック各地

(2) 飛 込

① 国際競技会

(a) FINA グランプリ(カナダ)	5/1～4	カナダ・ガティノー
(b) FINA-world Series	4/25～27	イギリス・ロンドン
	5/ 2～4	モスクワ
(c) FINA-world Series	5/30～6/ 1	カナダ・Windsor
	6/ 6～6/ 8	メキシコ・Monterrey
(d) ワールドカップ	7/15～20	中国・上海

- | | | |
|---|------------|--------------------|
| (e) FINA グランプリ(イタリア) | 8/ 1～3 | イタリア・ボルザノ |
| (f) 世界ジュニア選手権 | 9/ 9～14 | ロシア・ペンザ |
| ② 強化トレーニング | | |
| (a) ナショナル海外合宿助成事業 | | |
| (b) ナショナルチーム強化国内合宿 | | |
| (ア) ワールドカップ強化合宿 | 7月 | (JISS・青木) |
| (イ) ナショナル強化合宿 | 6月 | (各地) |
| (ウ) ナショナル強化合宿 | 3月 | (JISS・辰巳) |
| (c) ナショナル スカット強化合宿 | | |
| ・ 年7回の実施予定 4月・5月・8月・11月・12月・1月・3月 | | (静岡・浜松・東京・JISS/辰巳) |
| ・ 派遣直前合宿 | 9月 | 1回 |
| (d) ジュニア強化合宿 | | |
| ・ 年3回の実施予定 | 11月・12月・1月 | (東京・JISS/辰巳・静岡/浜松) |
| (e) 小学生研修合宿 | | |
| ・ 年2回の実施予定 | 10月・1月 | (東京・JISS/辰巳・三重/鈴鹿) |
| ③ エリートアカデミー活動 | | |
| | 通年 | (JISS/辰巳・千葉国際・青木) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ナショナルトレーニングセンターの機能を活用した、トップレベルの専任指導者による長期的・集中的な競技スキルの指導プログラム ・ ライフスキル、コミュニケーションスキルを身につけさせ、社会性、人間性を向上させるための知的能力開発プログラム。 ・ 共同生活を通じて必要な社会規範を意識させ、日本のトップアスリートと触れ合うことで、競技に対する心構えや態度を養うためのプログラム。 ・ 国際人として海外で活躍できるようにするための語学教育プログラム。 ・ 基本的な学力の定着を図るための学習(補習)プログラム。 | | |
| ④ 企画・研修及び講習会 | | |
| (a) 強化コーチ会議 | 10月 他 | 数回 |
| (b) ブロック代表会議 | 12月 | 1回 |
| (c) 審判員研修会 | | |
| ・ 国内審判研修会 | 5月・6月・7月 他 | 数回 |
| ・ FINA Diving Certification course | 6/13～6/15 | 東京辰巳国際水泳場 |
| (3) 水 球 | | |
| ① チーム派遣 | | |
| (a) 男子ワールドリーグ予選 | 5月26日～6月1日 | 中国・昆山 |
| (b) 女子ワールドリーグ予選 | 5月19日～25日 | 米国・ロサンゼルス |
| (c) 男子ワールドリーグ・スーパーファイナル | 6月16日～21日 | UAE・ドバイ |
| (d) 女子ワールドリーグ・スーパーファイナル | 6月10日～15日 | 中国・上海 |
| (e) 男子世界ユース選手権 | 8月2日～10日 | トルコ・イスタンブール |
| (f) 女子世界ユース選手権 | 8月25日～31日 | スペイン・マドリッド |
| (g) 男子アジアジュニア選手権 | 未定 未定 | |
| (h) 女子アジアジュニア選手権 | 未定 未定 | |
| ② 国際大会派遣選手選考会 | | |

- | | | |
|---|--------------------|------------------|
| (a) ワールドリーグ・アジア大会 | 2014年3月11日
7月8日 | 2014年度
選考対象試合 |
| (b) 男女世界ユース選手権 | 5月13日 | 2014年度
選考対象試合 |
| (c) 代表候補トライアル | 2月 | JISS |
| ③ 強化トレーニング | | |
| (a) 海外拠点強化合宿(男女) | 7月・8月 | 中国・ハンガリー他 |
| (b) 国際競技会国内事前合宿 | 4月・5月・6月・8月・9月 | JISS他 |
| (c) ナショナルチーム強化合宿(男女) | 4月-9月・11月-3月 | JISS他 |
| (d) 男女ジュニア・ユース研修(男女) | 12月27-30日 | 岡山・倉敷 |
| (e) 海外選手派遣事業 | 通年 | ヨーロッパ |
| ④ チーム招聘・コーチ招聘 | | |
| (a) 男子豪州・中国代表合同合宿 | 9月 | JISS |
| (b) 女子豪州選抜合同合宿 | 9月 | JISS |
| ⑤ 企画・研修及び講習会 | | |
| (a) 男女強化コーチ会議 | 6月・8月・9月・10月・3月 | |
| (b) 全国コーチ会議・研修会 | 10月 | |
| (c) 国際情報収集 | | |
| (d) 日本代表ゲーム分析・評価事業 | | |
| (e) 強化指定選手研修会 | 4月 | |
| (f) コーチ研修会 | 10月 | |
| (g) 審判指導者合同研修会(国際トップ判員の招聘) | 10月 | |
| (h) ジュニア指導者研修会 | 12月 | |
| (4) シンクロ | | |
| ① 国際競技会 | | |
| (a) ワールドカップ | 10月 | カナダ・ケベックシティ |
| (b) 世界ジュニア選手権 | 7~8月 | フィンランド・ヘルシンキ |
| (c) スペインオープン | 6月 | スペイン |
| (d) スイスオープン | 6月 | スイス・モントルー |
| (e) 地中海カップ | 7月 | ギリシャ・アレクサンドルポリス |
| (f) クリスマスプライズプラハ | 12月 | チェコ・プラハ |
| (g) ジャーマンオープン 3月ドイツ・ボン | | |
| (h) フレンチオープン 3月フランス・パリ | | |
| ② 強化合宿 | | |
| (a) 国際競技会派遣強化合宿 | | |
| (b) ユース有望選手特別強化合宿、ユースエリート・ジャンパー育成特別強化合宿 | | |
| (c) 全国選抜シニア・ジュニア中央強化合宿 | | |
| (d) ジュニアフィギュア強化合宿 | | |
| (e) 選考課題研修合宿 | | |
| ③ コーチ・役員 派遣・招聘 | | |
| (a) コーチ国際大会研修派遣 | | |
| (b) 欧州選手権視察 | | |
| (c) 海外コーチ招聘 | | |

- (c) スポーツ医学・健康医学セミナーへの協力
- (d) 障害を予防するための研究・予防プログラムの普及

5. 普及事業

水泳及び水泳競技の更なる普及を目的とする諸事業を通じ、市民や水泳競技者に対して技能向上の機会の提供をする。また、生涯スポーツとしての水泳及び水泳競技の普及を図ることによって、スポーツ振興に寄与する。

(1) 指導者養成登録事業

① 競技力向上コーチ委員会

- (a) 資格審査会(年2回)の実施
- (b) コーチ資格の新規登録・再登録・更新登録
- (c) コーチ研修会の開催(コーチ10会場・上級コーチ2会場)
- (d) コーチ養成講習会の実施
- (e) 免除適応コース実施校の開拓
- (f) 公認スポーツ指導者管理システム(マイページ)の活用

② 地域指導者委員会

- (a) スポーツ指導者養成に関すること
 - (ア) 指導員・上級指導員新規養成事業の推進・加盟団体による指導員養成
 - (イ) ブロック別主管加盟団体による上級指導員の養成
 - (ウ) 指導員・上級指導員資格取得者の登録及び有資格者の更新
 - (エ) 基礎水泳指導員養成に関すること
 - (オ) 免除適応校専門科目検定
 - (カ) マスター指導員中央研修会の実施
 - (キ) 安全対策の普及徹底
 - (ク) 全国地域指導者(普及)委員長会議の開催
 - (ケ) 各種依頼事業への協力
- (b) 普及に関する研究
 - (ア) 総合保障制度への加入推進
 - (イ) 加盟団体各地区委員長会議・研修会の開催

③ 水泳教師委員会

- (a) 水泳教師新規養成事業の推進(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
 - (ア) 適応コース講習検定会の実施(日本水泳連盟担当)
 - (イ) 適応コース大学検定会の実施(日本水泳連盟担当)
 - 適応コース認定校の新規開拓(日本水泳連盟担当)
 - (ウ) 新規養成コース講習検定会の実施(日本スイミングクラブ協会担当)
 - (エ) 「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- (b) 水泳教師資格の新規・更新登録(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- (c) 水泳教師資格更新研修会の開催(日本スイミングクラブ協会と合同推進)
- (d) 水泳教師在籍施設証明事業の推進(日本スイミングクラブ協会と合同推進)

(2) スポーツマスターズ事業

日本スポーツマスターズ水泳競技大会(埼玉県)の運営を行う。

- ・関連団体と連携しながら、大会の更なる発展を目指す。
- ・2020年構想の一環として「水泳の日」の企画を行う。

(3) 泳力検定事業

- ① 検定受験者及び合格者数の増加
- ② 特別泳力検定会等の企画・立案・運営
- ③ 泳力検定優秀団体の表彰

(4) オープンウォータースイミング事業

- ① 競技会運営
 - (a) 「OWS ジャパンオープン 2014 館山」の主催
 - (b) 2020年東京オリンピックの競技運営に向けた各種準備
 - (c) 公認OWS審判員制度の策定
 - (d) 国民体育大会種目化に向けた企画・準備
 - (e) サーキットシリーズ各大会の支援協力および各地事前調査
- ② 普及発展
 - (a) OWS スイムクリニック、OWS検定会の開催
 - (b) 認定 OWS 指導員の養成
 - (c) OWS 教本改訂版の発刊

(5) 日本泳法事業

- ① 第59回日本泳法大会 8月23日(土)・24日(日) 名古屋ガイシアリーナ
- ② 游士、練士、教士、範士修水、和水、如水の資格認定、游士研鑽会の開催
- ③ 第63回日本泳法研究会 平成27年3月21日(土)・22日(日)
 - ・鹿児島市、鳴池公園水泳プール 課題「神統流」

(6) 機関誌発行事業

- ① 月刊水泳
- ② その他出版物

(7) その他の普及事業

- ① ぱちゃぼ等に係るライセンス事業の推進
- ② 水泳ビデオ・教本の発行

6. 組織運営のための共通事業

(1) 広報

- ① ホームページ
必要とされる情報をタイムリーに、ホームページに掲載すること等を踏まえ、情報システム委員会と連携強化する。
- ② 広報・報道活動
競技運営委員会と連携し、主要競技会のマスコミ・報道関係への告知・取りまとめを行う。

(2) その他

- ① 地域会議の開催
- ② 創立90周年記念事業への対応

II 組織運営及び財政基盤の確立

本連盟が、策定した「ドリームプロジェクト～2020年に向けての構想」に基づいて、各専門委員会を中心に、事業内容の精査・充実を推進する。

各種事業の遂行にあたっては、加盟団体の協力を得て実施することはもとより、日本オリンピック委員会、日本体育協会等の関連団体とも連携を図り実施していく。

財政面においては、全体の収支バランスを考えながら、有効適切な事業の執行、予算管理を行う。

なお、本連盟の組織運営及び財政の確立に際しては、関係者が一丸となって、各種コンプライアンスを徹底する。

III 専門委員会の方針

(1) 競技事業

競技事業担当 安部 喜方

2020年東京オリンピックが決定したことにより、東京オリンピックに向けた競技会運営の向上に取り組む。その一環として2014年度から2017年の4年間ワールドカップの継続開催も決定した。また、2016年アジア選手権・2018年パンパシフィック選手権、2019年プレオリンピック大会を開催する。国際大会を通して日本の競技運営全般の体制整備及び資質向上を計画的に推進していく必要がある。

そのために競技委員会では、組織の見直しを行い、役割分担を明確にしてそれぞれの業務が円滑に進む体制作りを推進する。

① 競技事業・マーケティング

事業担当 安部 喜方

競技力向上事業との更なる連携を図り、2016年リオデジャネイロ・オリンピック、2020年東京オリンピックに向けた事業展開を行う。

② 競技委員会

競技委員長 鈴木 浩二

本連盟主催大会では、各主要大会の開催地加盟団体や全国高等学校体育連盟・日本中学校体育連盟等のスポーツ団体と連絡調整を密にして、準備から大会終了まで統括し、全国で統一した大会運営を目指す。また、国内における競技規則の正しい適用と円滑な大会運営を担う競技役員の資質向上を図る。

③ 学生委員会

学生委員長 林 敏久

第90回日本学生選手権水泳競技大会を始めとする学生大会の成功に向けて、全力で取り組む。また、年4回の全国代表者会議を開催するとともに、今年度実施予定の第6回全国学生選抜グアム合同合宿を通し、各支部間相互の競技力向上と厳正なる学生水泳競技精神の養成を目指す。

(2) 競技力向上事業

競技力向上担当 上野 広治

あと6年で東京オリンピック。2016リオ大会では、競泳は金メダルと過去最多メダル獲得、シンクロはメダル獲得、飛込・オープンウォータースイミングは上位入賞、水球は男女出場権獲得を目指す。リオデジャネイロをステップとして強化の成果に対する評価は結果しかありません。2020東京オリンピックに対するミッション設定と将来への長期的なロードマップは、机上の空論にならぬよう強化状態を確認する意味も含めて、月一回特別強化委員会を実施して4部門の進捗状況を把握する。この会議はオリンピックに向けた競技力向上のために強化事業及び派遣事業がより効果的に実施されるよう、各部門を支援し推進することを趣旨とします。

① 競泳委員会

競泳委員長 上野 広治

ロンドン大会後リオ大会への課題を明確にして臨んだ2013年世界選手権では、瀬戸大也選手の金メダル獲得、萩野公介選手の自由形種目メダル獲得をはじめオリンピック翌年の成果はあったものの全体的にはメダル獲得数が半減しており、オリンピックメダリストへの世界選手権出場権を付与することは反省材料になってしまった。タフなレースを戦う課題では萩野選手が7種目17レースと今大会最も多くのレースに出場しタフさを磨いた。また昨年度の派遣は世界選手権とユニバーシアードとをセパレートにした結果、ユニバーシアード組は自己ベストを更新し大きな成果を挙げた。

長期的な目標を2020年東京オリンピックに向けて「58種目フルエントリー」、「29種目以上決勝進出」、「複数の金メダル及び二桁のメダル獲得（自由形種目を含む）」というミッションを掲げた。平成26年度の最重要大会を8月第12回パンパシフィック大会と9月第17回アジア大会とし、4月の日本選手権と6月のジャパンオープンで代表を選考する。この両大会での選考は、2015年カザン世界選手権に向けて派遣標準記録を突破させるための強化策として実施する。また最重要大会では金メダルに拘り中間年のレベルアップを図る。

昨年に引き続き各国際大会に向けての強化合宿に加え、4月の日本選手権終了後、ゴールデンウィーク期間にインターナショナル突破者にジュニアエリートBを加えた強化合宿を行う。継続して下期に実施しているインターナショナル合宿（年2回）はJISSとグアムで行う。また女子選手の低迷から定期的に週末合宿を行い特化した強化を行う。

ジュニア強化（高校生及び中学生）に関しては、8月ユースオリンピック・ジュニアパンパシフィック大会に代表を選考し派遣する方針である。ブロック代表国際大会派遣は、引き続きシンガポールに派遣し強化する。また、国内強化は中央と地方で行い、第37回ナショナル強化合宿（中央：12月15日～23日）とジュニアブロック合宿（10地域）、エリート小学生合宿は年2回（春・秋）継続して合宿強化を実施する。

② 飛込委員会

飛込委員長 伊藤 正明

昨年度の世界選手権で男子3m飛板飛込において坂井丞選手（日本体育大学3年生）が決勝8位に入賞した。また東アジア大会（中国・天津）では岡本 優選手（JSS宝塚）が3m飛板飛込で中国の一角を破り見事に銀メダルを獲得し、また岡本・長谷川寛人選手（長岡体育協会）ペアが3mシンクロナイズド飛板

飛込において久々の優勝を果たした。しかし、わが国の強化策は国際大会で目標を達成するための合宿・練習会に努めているが、急速に進歩している国際舞台での十分な競技力（技術・精神力・安定性）の発揮には至っていない。平成26年度は前年度より細部にわたる強化方針を設定し、強化合宿の充実や国内大会や国際大会において好結果（自己ベスト更新・国際大会入賞）をあげると共にシンクロダイブの強化を重点目標とした。

また、JOC アカデミー事業（エリートアカデミー）の実施は、ジュニア期におけるアスリートの発育・発達に合わせ、トップアスリートとして必要な「競技力」「知的能力」「生活力」の向上を目的とし、全国から優れた素質のあるジュニア選手を募り一貫指導システムに基づいた強化を行う。本年度は中学1年生男女、高校女子1名、計3名で開始する。味の素トレセンの機能を十分に活用し、また他の競技（体操・トランポリンなど）との技術面、システム面の連携を図る。東京オリンピックを見据えた国家体制の強化システムとなりメダル獲得への最大の重点事業とする。

そして、平成27年3月の全国ジュニアオリンピック春季水泳競技大会での飛込競技開催は、ジュニア層の基礎技術の定着化と成功体験の拡大、競技モチベーションの向上を目的とする。この年齢だからこそ出来る制限選択飛に重きを置き、助走の安定性・空中フォームや入水技術で絶対条件となる体幹強化を図り、更なるジュニア層の育成を目的とした事業とする。また、FINA 国際審判員の養成は、オリンピックを始めとする国際大会への審判派遣につながる大切な事業で、6月にFINA Diving Certification course を実施する。

③ 水球委員会

水球委員長 原 朗

平成26年度は、男女ともに「FINA 水球ワールドリーグ」と「第17回アジア競技大会（韓国・仁川）」に代表チームを派遣する。昨年度から強化はすでに「2016年リオデジャネイロ」に向けて、4年スパンの強化をスタートしている。代表チーム編成は、若手戦力を加えて世代交代を戦略的に進めている。強化内容においては、平成25年9月より、ルールの変更と適応範囲が大幅に変更され、高いスピードと運動量が要求されることになった。現在、戦術面において「ルール変更」と日本人の「強み・弱み」を取り入れた「日本独自のスタイル」の構築と、それを実現するための体力向上に取り組んでいる。また、代表主力選手の欧州強豪クラブへの長期派遣事業については、対象選手と支援内容を見直し、豪州・中国合同合宿とともに継続していく。

代表選手選考方法については、平成24年度より主要国内競技会を選手選考の場としている。これにより、学生選手のチャレンジ意識の醸成と、ベテラン選手に緊張感が生まれ、選手間の競争意識を持たせることに成功している。また、国内競技会のレベルアップにもつながっており、今年も引き続き継続していく。今年度は何としても、カザフスタン・中国を破り2016年オリンピック大陸予選につなげていきたい。

2020年東京オリンピックを見据えた育成・強化については、1996年生まれ以降の男女を「世界ユース選手権（U18）」に派遣して経験を積ませる。この選手たちは、7年後に代表主力選手として期待できる24-25歳である。この世代は昨年「アジアユース大会（U17）」において、男子はライバル国のカザフスタンと中国を圧倒して破りアジア No1となっている。女子については、中国に惜敗する

もカザフスタンに勝って世界大会の出場権を獲得しており、男女ともに世界ユース大会での戦いが期待される。また「全日本ユース・桃太郎カップ大会」終了後に1998年生まれ以降の男女選手を対象とした研修合宿を実施して更なる発掘・育成・強化を図る。

- ④ シンクロ委員会 シンクロ委員長 本間 三和子
平成26年度は、FINA ワールドカップ（10月、カナダ）及びアジア大会（9月、韓国）に代表チームを派遣する。メダルから遠のいて久しい日本は、ベテランコーチの力を借り、若手コーチの育成とともにリオオリンピックへ向けて代表チームの再構築を図る。世界でメダルを目指し戦うためには、チーム全体のスケールの大きさ、ダイナミックさが不可欠である。そこで、代表派遣選手選考会においては身長減点を採用し、大型で技術力の高い選手を選考する。代表強化においては、身体体積の高さ、強い脚、クリアさ・シャープさを重点課題とし、同時性、正確性を極め、表彰台に近づくよう長期国内強化合宿を積む。また、2020年東京オリンピックを見据え、B代表とジュニア代表の強化を重視する。B代表個人種目をスペインオープン（6月、スペイン）に派遣、ジュニア代表を世界ジュニア選手権（7月～8月、フィンランド）及びスイスオープン（6月、スイス）に派遣する。ジュニアにおいては、フィギュアの高さとコントロール力、ルーティンのスピード・パワー・表現力の徹底強化を図り、表彰台を狙う。
さらに、ユース年代（12～15歳）の強化育成を継続する。全国8ブロックより選抜された有望選手を対象に、基本技術の徹底、および表現力、ダンス、マット運動、柔軟性強化など所属では取り組むことが困難なトレーニングを中心としたユース有望選手合宿を実施する。有望選手からさらにエリート強化選手とジャンパー強化選手を選考し、エリート強化合宿ならびに国際大会派遣を通して、次代の中心戦力になる選手を着実に育てていく。
選手強化と並行してトップレベルの指導者と審判員の育成も重要な柱である。ナショナルコーチ研修会、審判研修会を通して、専門知識や指導技術の実践研修を行い、世界をリードする指導者と審判員の育成に力を注ぐ。また、欧州大会へのコーチ研修派遣や映像分析を行い、国際情報の収集・分析、技術分析を推進する。

- ⑤ 科学委員会 科学委員長 松井 健
平成26年度は、関係諸委員会、JISS、JOC と一層連携を深め、競技力向上に関する科学支援事業を展開する。レース分析システムの再構築を図りながら、利用促進を含め、国内競技会等で実施する。そして、教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会年次大会に協力する。また、同学会が行っている第13回国際水泳バイオメカニクス・医学シンポジウム（平成30年開催）の招致活動に協力する。学会等における最新の科学的知見を広報委員会と連携し、月刊水泳等で広く周知させることに努める。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供と、養成講習会の講師派遣等に協力する。その他、競技力向上に関する科学サポートを推進し、エリート小学生やナショナル選手の合宿等で科学情報の収集や提供に協力する。また、飛込、水球、シンクロの各委員会が行う科学サポートに協力する。

- ⑥ 医事委員会 医事委員長 金岡 恒治
昨年度は、計画通りに主要競技大会や強化合宿でのメディカルサポート活動を実施した。またメディカルスタッフ間の情報交換や研究報告活動を行った。平成26年度は、関係諸委員会、JISS、JOC、マルチサポート事業等との良好な連携のもとに、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動及び研究報告活動を行う。具体的には、各種競技会における救護活動、国際競技会大会選手団に対するメディカルサポート、強化対象選手のメディカルチェック、傷害予防プログラムの考案と実践、JISSクリニック、リハビリテーション室における医事相談・トレーナー活動、メディカルスタッフ間の連携と情報共有を目的とした水泳競技メディカルサポート研究会、水と健康医学研究会等を実施する。教育・啓発活動として、日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。また、指導者養成講習会への講師派遣等の協力を行う。
研究成果報告として関連する学術集会において発表する。

- (3) 指導者養成事業 指導者養成事業担当 設楽 義信
水泳競技の普及振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、日本体育協会と連携し指導者養成事業を実施する。
また、日本体育協会が一昨年より実施した指導者資格再登録及び公認スポーツ指導者管理システムの活用を三委員会が足並みを揃えしっかりと取り組む。

- ① 競技力向上コーチ委員会 競技力向上コーチ委員長 設楽 義信
研修会・養成講習会の会場手配も完了し新年度を迎える。今後も世界で戦えるトップアスリート育成を目指し、コーチへの最新知識の提供に努める。また、五年目を迎えた免除適応コース実施校の新規開拓も併せて行う。
- ② 地域指導者委員会 地域指導者委員長 宮本 憲二
上級指導員の講習・検定及び上級指導員マスター認定者研修を今年度も実施する。また、スタートしたアスリート対象基礎水泳指導員免除申請業務も併せて行っていく。今後も加盟団体と連携をとりながら免除校検定試験、養成・更新登録業務等をしっかりと推進する。
- ③ 水泳教師委員会 水泳教師委員会 澁谷 俊一
スイミングクラブ等の商業施設で会員(顧客)が満足できるような指導者育成を目指した専門的知識・技能等、レベルやニーズに合わせた指導力を身につけるための養成・研修会事業を推進する。今後も日本スイミングクラブ協会と連携し、安心して指導が受けられる施設の拡充を目指す。

- (4) 総務事業 総務事業担当 坂元 要
組織運営の潤滑油的役目の総務部門においては、定款や諸規程に基づいた組織運営を心がけ、各専門委員会との連携を促進し、組織全体の円滑な運営を行う。また加盟団体をはじめ各スポーツ団体と相互協力を行い、組織の一層の充実と発展を図る。

- ① 広報委員会 広報委員長 村山 よしみ
月刊水泳に関しては、本連盟の活動を事業記録として、タイムリーに掲載し、

見やすい、分かりやすい機関誌として新企画を実施する。また、各競技がバランスよく掲載されるように、各競技担当者と連携をとりながら製作する。月刊水泳発行に関する予算面においては、コスト等の見直しを常に行い、適正な経費管理を行う。

ホームページ事業は、必要とされる情報をタイムリーに掲載すること等を踏まえ、情報システム委員会と連携を取り進める。

広報・報道活動に関しては、競技運営委員会と連携し主要競技会の報道関係への告知・取りまとめを行う。

- ② 施設用具委員会 施設用具委員長 清田 千秋
平成26年4月のプール公認規則の改正に伴い、公認規則（2014）の変更箇所、プールを設計する際に必要な要領、付則事項等についても、水泳関係者、加盟団体担当者及び公認測量者への周知徹底を図る。
ホームページの「Q&A欄」をさらに充実させ情報の発信・提供を行う。
また、総務委員会と連携し、プール関連企業の施設用器具の開発・審査・推薦を行う。

- ③ 情報システム委員会 情報システム委員長 蠣原 和隆
競技者登録システム（SWMSYS）の更なる機能改善と記録管理。記録ランキングシステムと連携し、モバイル機器（携帯・スマホ）への対応拡大を図る。各委員会と連携しホームページの再構築に向けて取り組む。

- ④ アスリート委員会 アスリート委員長 萩原 智子
アスリートとしての知識や経験を最大限に活用し、ジュニア選手から日本代表選手まで、選手を取り巻く現場の活性化、より良い環境の整備に取り組む。水に関わるスポーツとして、水育や教室などを通じ、環境問題へ取り組む。社会貢献活動を行うと同時に、水泳の魅力を伝え、普及活動が出来るよう努める。2020年に向けて、アンチドーピングの啓発、国際交流の場を設ける。

- ⑤ 総務委員会 総務委員長 坂元 要
組織運営の中核としての役割を担い、本連盟の各業務の充実を図るため、各専門委員会との連絡調整を密接に行い、諸事業の運営が円滑に推進されるよう支援して行く。
また、平成26年11月22日（土）開催の創立90周年記念事業に向けて、設置した式典、表彰、記念誌編集の3委員会と連携して取り組む。

- (5) 生涯スポーツ・普及事業 生涯スポーツ・普及事業担当 村山 よしみ
生涯スポーツ事業は『日本泳法』、『マスターズ水泳』、『泳力検定』、『オープンウォータースイミング』の4つの部門を統括し、更なる水泳競技の普及発展並びに、水泳愛好者に対して技能向上の機会を提供する事業を行う。

- ① 生涯スポーツ委員会 生涯スポーツ委員長 平本 武男
泳力検定事業では、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門として位置づけ、水泳技能に係るスポーツ検定として推進する。

マスターズ水泳では関連団体と連携しながら、日本スポーツマスターズ大会の更なる発展を目指す。また、2020年構想の一環として、水泳を通して子供から大人まで多世代にわたり水泳を楽しむ「水泳の日」のイベントを企画する。

② 日本泳法委員会 日本泳法委員長 日野 明德
 それぞれ年1回開催する日本泳法大会および日本泳法研究会を通じ、現存13流派各泳法の保存と普及を図る。平成26年度からは、従来行ってきた指導者育成のみならず、生涯スポーツとして研鑽している泳者へのモチベーションアップにも重点を置くため新資格制度を発足させ、さらに大会の団体泳法競技種目にシニアクラスを追加する。また游士資格保有者を対象に年1回又は2回の研鑽会を開催する。

③ OWS委員会 OWS委員長 鷺見 全弘
 オープンウォータースイミング競技の更なる発展と競技力向上を両立させて事業を実施する。
 (a) 競技会運営(安全重視の競技会運営)
 (b) 普及発展(クリニック・検定会の実施)
 (c) 競技力向上
 (d) 安全対策

(6) 財務一般会計 財務担当 坂元 要
 ・ 予算の作成と執行管理
 ・ 中長期財務対策

(7) 特別委員会

① 財務委員会	財務委員長	堀 正美
免税募金事業の推進		
② 競技者資格審査委員会	競技者資格審査委員長	青木 剛
競技者資格の審査		
③ 選手選考委員会	選手選考委員長	鈴木 大地
国際競技会派遣日本代表選手団の選考		
④ 指導者養成委員会	指導者養成委員長	設楽 義信
指導者養成制度の推進と資格認定審査		
⑤ 国際委員会 (F I N A ・ A A S F)	国際委員長	緒方 茂生
国際関係の情報共有推進と国際競技会の招致企画		
⑥ アンチ・ドーピング委員会	アンチ・ドーピング委員長	泉 正文
アンチ・ドーピング活動の計画と推進		
⑦ スポーツ環境委員会	スポーツ環境委員長	齊藤 由紀
スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進		
⑧ 倫理委員会	倫理委員長	青木 剛
倫理、社会規範意識の啓発と指導		

